



教えて! 情報の選び方・受け取り方



1面でお話を伺ったジャーナリストの下村健一さんに「情報の取り扱い方に関する疑問質問」を伺いました。

Q 身近な人がデマなどの怪しい情報を信じていたり、流していたりしたときにどう指摘したらいいのでしょうか?

A YES ANDで伝えよう!
デマを流す人が悪い人とは限りません。良いと信じて正義感や使命感から流している人が多いのですよ。また、家族の中でも意見が違うということも少なくありません。「違うよ、こうだよ」とすぐに否定すると逆効果。NO BUTではなくて YES AND という表現で伝えてみましょう「なるほどね、あとこんな情報もあるよ」と別の情報を出し「どちらなんだらうね」と複数の情報を持っている自分と同じ状態に相手の人もしてあげる。そうするとその人の窓が広がりますよね。

Q 結局どのメディアを信じたらいいんですか? 複数の情報源をいつもチェックするのは、疲れてしまいます。

A 全部見るのは無理。着眼にコツがある。
信じるメディアを一つに決めつけると、窓を狭めます。だけどいろいろ調べるのはヘトヘトになりますよね。複数の情報源をチェックする際、検索して三つくらいをみる余裕しかないなら、「上から三つ」ではなくて、「違うことが書かれている三つ」を選びましょう。それだけで、視野が広がります。答えを〇か×で決めつけず、音量のつまみをひねるみたいに自分の中で日々信用度を調節し、仮置きで受け取っていきましょう。

Q インターネットでなんでも意見が言えるようになりましたが、知らずに自分が誰かを傷つけていないか? また、自分の発言が誹謗中傷を受けるのではないかと思うと、怖くて発信できないです。

A 大切なのは思いやり。
情報はキャッチボールです。エラーせずに受け取ることができたら、今度は暴投せずに相手が受け取れる球を投げるのが大切です。情報を発信する時には「きめつけ」と「きづつけ」がないように。自分が発信する時に「この表現で伝わるだろうか」「傷つく人がいないだろうか」と想像しましょう。この二点に共通するのは、相手への《思いやり》です。「この言葉でいいかな?」と常に相手の立場で考え、立ち止まりながら、思いやりを持って発信していきましょう。「怖くて気安く発信しにくくなっちゃう」ことは、「恐れずになんでも発信する」ことに比べたら大進歩ですから!



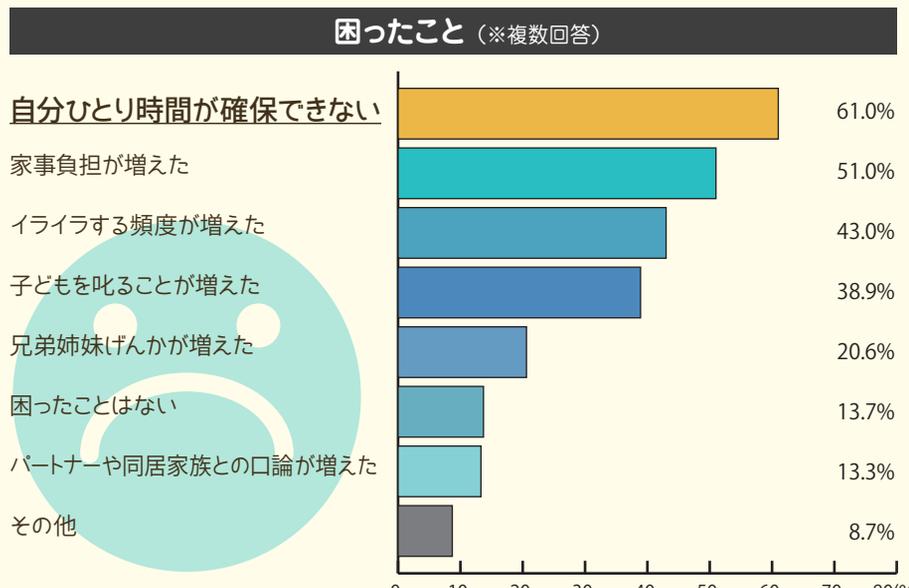
前代未聞のSTAY HOME!

みんなどうやって過ごしていたの? 今後第二波が来た時の参考に、ベイ★キッズで行ったアンケートから探ってみました。

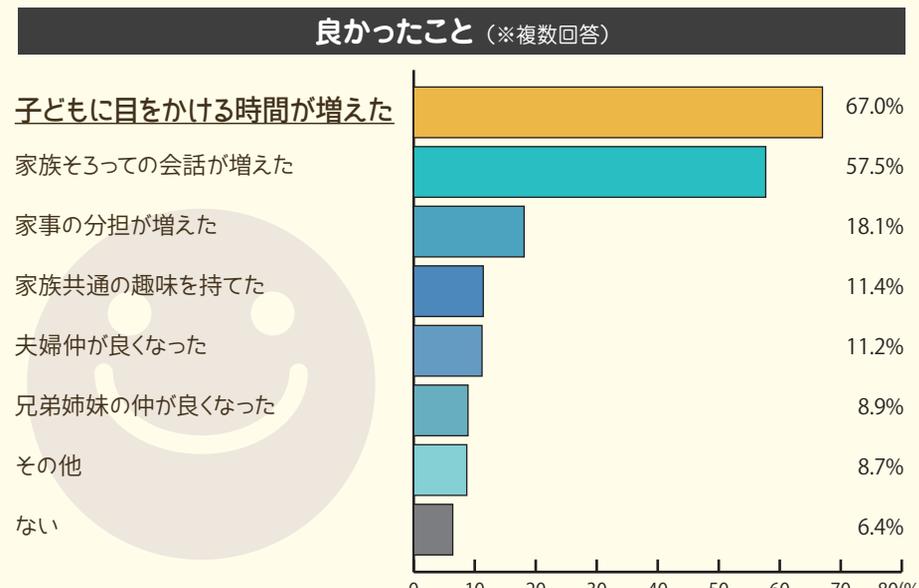


アンケート概要: STAY HOME中の子育て世帯の状況アンケート 2020年5月12日~5月20日 インターネット調査 有効回答数437

◆STAY HOMEにより生活に変化があったことで…



「ひとりの時間を確保できない」が1位!
その他では、「食費・光熱費が増えた」や「子どもがいるので在宅ワークがはかどらない」が多く、「下の子が小さいので上の子(低学年)の勉強のサポートが難しい」、「夜中に仕事をする事になり睡眠不足」という意見がありました。



「子どもに目をかける時間が増えた」が1位!
その他では、「家の片付け・断捨離が進んだ」という方が多くいました。なかには、「夫の外出が減って健康的になった」や「時間に余裕ができたことで、子どもにイライラすることが減った。」なども。

◆STAY HOMEをきっかけにコレははじめました

家庭菜園、ガーデニング
庭やベランダを使って植物を育て始めた人が多かったです。中にはメダカなど生き物の飼育を始めた方も。



チャレンジ!
前からやりたかったことに挑戦
<資格試験勉強><ギター><子どもと一緒に料理>etc.



「いつもと違う」を楽しむ

- ベランダで過ごしたりご飯を食べる
- 手の込んだ料理に挑戦 (しまい込んだ調理器具を出したり)
- いつも通らない道を散歩して新しい公園を発見!



◆これからも継続したらいいと思う習慣や社会慣習

- 【働き方について】**
この設問に答えてくれた88人中55人が、テレワークや時差出勤など柔軟な働き方が今後も進めばよいという意見でした。
- 【オンライン活用】**
気になる講座や習い事がオンラインなら参加できる! 子どもだけでなく大人の学びや趣味の充実の可能性も。学校のオンライン授業整備で学びの機会が広がります。
- 【感染予防対策】**
様々な感染症予防の対策として 手洗い・うがい・換気などの習慣化。

オンラインセミナーに参加♪



リモートサッカー教室



編集部より

誰も経験したことのない事態に遭遇し、様々な情報に巻き込まれながらも、多くの人がこれまでの暮らし方を見直すきっかけになったようです。新型コロナウイルスは「災害」と捉え、第二波や別の感染症が広まった時のために、今回の経験を活かして日ごろから社会の動きを他人事にせず一市民として関心を持つこと、情報を鵜呑みにせず自分の頭で考え整理をすること、そして様々な備えをイメージしておくことが大切です。

アンケートの全ての結果はベイ★キッズのHPをご覧ください。

